

国立・国定公園内における太陽光発電施設設置に係る課題
(第 1 回検討委員会の議論に基づく整理)

課題 1 景観の保全

- (1) 敷地面積の大きい太陽光発電施設は、「自然公園内の展望地から眺望されるおそれ」がある。(自治体)
- (2) 景観の特性上、定量的な基準を設けるのは難しい面がある。(自治体)

課題 2 生物多様性（動植物・生態系）の保全

- (1) 太陽光発電は設置する自然環境には特異性があり、特定の自然環境（日照や植生条件等）に影響が集中する可能性がある。(委員)
- (2) 太陽光発電事業による生物多様性への影響という観点からの知見は少ない。(委員)

課題 3 その他

- (1) 現時点では発電施設としての事業期間終了を迎えた事例はないが、事業期間終了後に撤去等の適切な措置が行われず、維持管理が行われないうまま「太陽光発電施設を放置される懸念」があり、対策を検討しておく必要がある。(自治体)
- (2) 地域住民、行政、事業者等による話し合い等、相互理解に基づく事業推進が望ましいが、現状では事業者が事前に地元説明会等の機会を持つ義務はない。(自治体、委員)
- (3) 事業ごとには環境配慮ができて、事業が複合的になった場合に別の影響が生じる可能性がある。総量的な視点についても検討が必要である。(委員)
- (4) 土地の改変や伐採が行われると、森林等が保有している災害防止機能が低下する恐れがある。(自治体)